

〔シカの生息域拡大過程ならびに捕獲シカの肥育条件の解明〕

再造林地におけるシカ生息密度の1年間の変化

新井一司・奈良雅代・荒川純彦・中村健一

(緑化森林科)

【要約】再造林地におけるシカの生息密度分布の変化を明らかにするために、2011年に引き続き、同じ10林地で糞粒法を用いて推定した。シカは、多摩の森林の東南部で生息密度が高まっており、シカ生息域の外延化を抑えるには、緊急な対応が必要である。

【目的】

東京都は、2006年からスギ花粉発生源対策事業いわゆる再造林を盛んに実施している。その対象地域は、第3期シカ保護管理計画（東京都、2012）で定めた被害防除対策エリアと分布拡大防止エリアである。ニホンジカ（以下、シカと略す）は、スギなどの人工林を伐採した後、明るくなった林地に生育してくる植物を食べに来ることが知られているが、都内の再造林地におけるシカの生息密度の推移については、不明である。そこで、2011年に糞粒調査を行った再造林地について2012年も同じ調査を行い、生息密度を推定して1年間の変化を明らかにし、再造林地における造林木へのシカ被害対策に活用する。

【方法】

調査地は、スギ花粉発生源対策事業で近年、再造林した図1および表1に示した10地点である。糞粒調査は、2012年10月に行った。1地点の調査は、約1ha内を5m間隔で1m²内の糞粒を数え、これを240カ所行い、平均糞粒密度とした。得られた糞粒密度から林外環境用の東京版シカ個体密度計算プログラム(ver. 0411)を用いて算出した生息頭数および作成した分布図を2011年の結果と比較した。

【成果の概要】

- 2011年にシカの生息が確認されなかった檜原村の1地点で、図2に示したように2012年には生息が確認された。シカは、1年という短期間で新たな再造林地に来るといえる。
- シカとの共生を目指す生息環境管理エリアの周辺では、2012年にシカの生息密度は、低下した。
- 2012年、生息密度が高かったのは、青梅市、日の出町、八王子市、あきる野市であり、多摩の森林の東南部に偏っていた。これらの地点は、20年以上シカが生息していなかったが、今回の結果から、近年は、この周辺でも定住して繁殖し、急速に個体数を高めているものと推察された。これらの地域、すなわち分布拡大防止エリアの目標像は、シカの生息域の外延化抑制であるので、今後、個体数低減に向けてこのような再造林地で緊急な対応が必要である。
- まとめ：2012年、シカは青梅市、日の出町、八王子市、あきる野市といった多摩の森林の東南部で生息密度が高かった。今後、都内のシカ生息域の外延化を抑えるには、このような地で緊急な対応をとる必要がある。

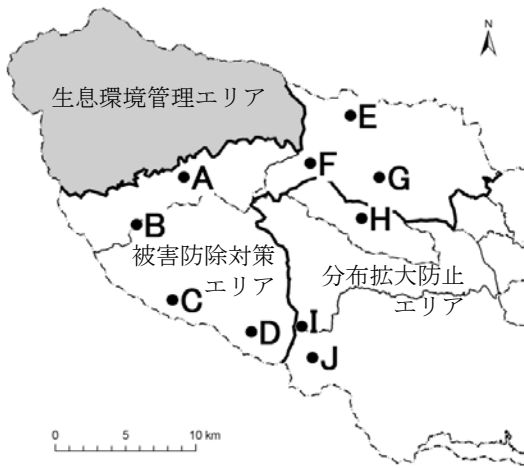


表1 糞粒調査地の概況

地点	名称	再生林面積 (ha)	標高 (m)
A	奥多摩町 境	6.5	620~930
B	檜原村 藤原	2.5	980~1060
C	檜原村 人里	7.1	620~860
D	檜原村 南郷	11.0	460~780
E	青梅市 成木	8.9	260~410
F	青梅市 御岳	4.8	250~500
G	青梅市 日向和田	1.5	220~310
H	日の出町 大久野	0.6	310~370
I	あきる野市 戸倉	5.0	520~740
J	八王子市 上恩方	4.5	420~640

図1 糞粒調査位置図

3つのエリア区分は、第3期シカ保護管理計画(東京都, 2012)による。分布拡大防止エリアの目標像は、農林業被害がなく、シカの生息域の外延化を抑制することとしている。

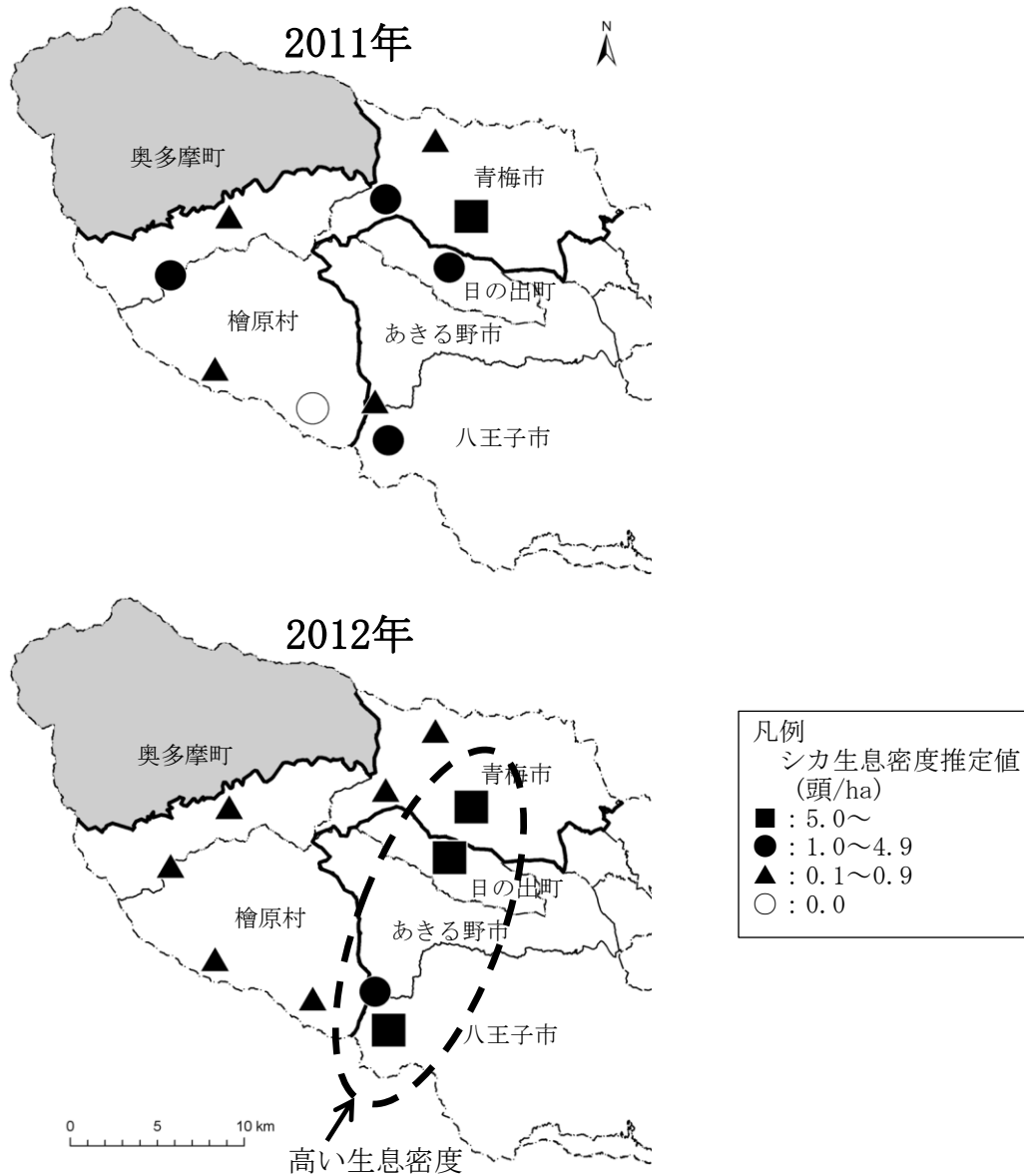


図2 再生林地における糞粒法によるシカ生息密度分布の変化